



# 東俣野特別支援学校

電話 045-851-9631

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/higashimatano/>

## 「 日常の生活から非日常の体験へ 」

学校長 仲程 剛

6月の末には二つの宿泊学習が行われました。

6月26日から高等部の宿泊学習が、一泊二日の日程で横浜あゆみ荘において行われ、6月27日からは、小学部の4、5年生と中学部1、2年生の宿泊学習が、同じく一泊二日の日程で校内で行われました。

高等部の宿泊学習では、あゆみ荘のある「都筑ふれあいの丘」から、地下鉄に乗って「センター北」まで行き、駅前の商業施設のビルの中にある店で「ミッション」として進路学習に使うラッピンググッズを買ったり、ウインドショッピングを楽しんだりしました。夜には花火を楽しみ、翌日は近くの公園への散策と室内レク（ポッチャ個人戦）が行われました。

小中学部の校内宿泊学習では、中学部は、初日の午前中に近くのラウンドワンでプリクラを楽しみ、午後は中庭で水遊びをしました。小学部は午前中にエアトランポリンをし、午後には「あぼじろう先生の実験」（おもしろ実験教室）を楽しみました。そして夜には、小中合同のキャンプファイヤー（もちろん火の神も登場）で盛り上がりました。二日目は、小学部は室内レク（すごろく）をして午前中に下校しました。中学部は午前中にポッチャ大会をして、午後は、宿泊学習全体の振り返りを行い、下校しました。

普段とは違う場所や環境での生活はワクワクドキドキします。これは、不安のドキドキでもありますが、楽しみのドキドキでもあります。楽しみの中で、人と関わりながら出来事と関わり、体験の幅を広げるには絶好の機会です。宿泊学習での子どもたちが、ドキドキしながら楽しんでいる様子に、あらためて、日常とは違う体験は子どもたちにとってプラスになると感じました。

もう一つ感じたことは、宿泊学習のプログラムを進めるためには、それぞれの日常の延長である生活行為をきちんと保障すること、そして一人ひとりの体調の管理を丁寧に行うことが大事であるということです。職員は、子どもたちの食事や着替え、トイレの支援については、毎日の学校生活でも経験していますが、場所や時間が違うことや、入浴や服薬、就寝などもあり、さらなる配慮が必要です。非日常のこゝろを行うには、日常の生活（生活行為）をしっかり支えることが必要です。今回の宿泊学習では、教職員の入念な打ち合わせと準備、そして保護者の方々の御協力、何よりも子どもたち自身のエネルギーによって、非日常の体験を積み重ねることができました。

間もなく夏休みに入ります。夏休みは、また別の意味で「非日常の体験」をできる機会でもあります。夏休み中のご家庭での子どもたちの日常の生活が、健康で充実した日々であることをお祈りし、同時に夏休みらしい体験を楽しんでいただければと思います。